

## 第1分科会【国語】

### 高大接続改革が拓く国語の可能性

#### ～大学入学共通テストと新学習指導要領から考える～

報告者▶ 島田 康行（筑波大学人文社会系／アドミッションセンター教授）

報告者▶ 渡邊 久暢（福井県立若狭高等学校教諭）

コーディネーター▶ 景山晋之介（京都市教育委員会学校指導課副主任指導主事）

令和4年度からの新学習指導要領実施に先立ち、令和3年度大学入学者選抜（令和2年度実施）から新しく大学入学共通テストが始まる。これからの国語教育はどのような力の育成を目指していくかを中心に、高大接続改革を通して見えることについて、高大からお招きするお二方の登壇者とともに考える。

#### 概略

### 1. 大学入学共通テスト「国語」のねらい

～書くことから考える高大接続～（島田康行筑波大学教授）

#### (1) 大学初年次教育で起こっていること

本日は、これまでの国語教育にどのような課題があったかをまず確認し、その認識を共有した上で、「論じる」力の大切さを実感できるような指導を目指していきましょうというお話をしたいと思います。

高校国語教育の課題は平成28年答申でも具体的に指摘されているところであり、これらも議論の出発点として共有されないといけないのですが、より深刻な事態として、現場の先生たちとお話ししていると、生徒たちが「書くこと」に意義や価値を見出せていないのではないか、といった声を聞くことがあります。本当なら大変困ったことです。

今日では、大学入学時点で残念ながら論じる力が十分に育っていないため、ほとんどの大学が初年次教育という名目で、新入生にスタディスキルを学ばせるプログラムを設けています。ここでは例えば「レポート・論文の書き方などの文章作法」や「プレゼンテーションやディスカッション等口頭発表の技法」といったことを学んでいます。そのこと自体は学生にとって意義のあることだと思えます。

ただ、問題は、そこで学ぶ内容の一部は中等教育の教育課程の中に位置付けられているはずだということです。それらがしっかり身に付いてくれば、大学の初年次教育のあり方もまた少し変わってくるだろうと思うのです。つまり、「論じる」力は高校と大学と両方で育てていかなければいけない力なのではないでしょうか。

例えば、初年次教育で私も「国語」という科目を担当していますが、文章を読んだ上で引用して批判しなさい、といった作業をさせると、カギカッコを付けたりして引用らしくはするのですが、引用箇所と主張が必ずしもつながっていなかったり、論点が捉えられていなかったり、とい

った例が多く見受けられます。実は学習指導要領上では、引用して自分の意見を書くことは、小学校「国語」の内容に5・6年から位置付けています。もちろん中学校「国語」でも高校「国語総合」でも位置付けています。しかし、十分に身に付いた上で大学に入学しているわけではない、という実態があります。

## (2) 大学新生を対象とした調査から見えること

一方、高校の国語の授業は変わりつつある、少なくともその兆しは見えていると私は考えています。

2009年に本学と西日本の大学の新生約360人を対象に、「高校国語の授業でまとまった分量(400字以上)の文章を書いた経験(回数)がどれくらいあるか」を尋ねる調査を実施しました。その結果、一度も文章作成を経験しないまま大学に進む生徒が一定数いることが見えてきました。ただし、これは旧課程の生徒たちなので、現行課程の生徒たちはどうなのか、10年後の今年、再調査してみました。今回は本学に加えて北陸の大学と関東の大学が母集団なので、厳密な比較とは言えませんが、「1回も書いてない」が41%から25%に減りました。それでも「3回以下」の合計が半数を超えているので、書くことがすごく活発になったとは言えないものの、「10回以上書いた」という回答も前回13%から今回は20%に増えています。【スライド13～14】

もう一つ新生対象の調査を紹介します。2015年～2019年の5年間、全国各地12大学約2,460人に対する調査です。現行の学習指導要領で学んだ高校生が最初に大学に入学したのは2016年なので、実は今年ようやく全学年で現行課程を卒業した学生が揃ったところなのですが、旧課程で学んだ2015年以前卒業の約800人と、新課程で学んだ2016年以降卒業の約1,600人で、自分が受けた高校国語の授業の記憶にどんな違いがあるかを調べました。アンケートには、現行学習指導要領「国語総合」の「指導事項」と「言語活動例」をほぼ引用した23の項目を挙げ、それぞれについて「よく学んだ」から「あまり学ばなかった」まで、5段階で回答してもらいました。

領域ごとにまとめてみると、「話すこと・聞くこと」に比べ、「読むこと」領域はやはりよく勉強した記憶があることがわかります。もう一つ言えるのは、ほとんどの項目で2015年以前の数値と2016年以降の数値がすごく重なっているということ。学習指導要領が変わろうが変わるまいが(笑)、先生方の授業がすごく安定していることがうかがえると思います。【スライド16～19】

「指導事項」については、ほとんどの項目が新旧両課程の卒業生で変わらないのですが、一点だけ目立つのが、「話すこと・聞くこと」領域の「根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して、自分の意見を述べること」。これについては数値が上がっており、やはり改善しているように思えるのですね。少なくとも兆しのようなものが見える、あるいは見たい。心の目で見ているのかもしれないですけど(笑)。

一方、「言語活動例」のほうは、「読むこと」領域の「現代の社会生活に必要とされる実用的な文章を読み、自分の考えをもって話し合うこと」について、目に見えて数値が上がっている。なお学生は、学習指導要領などは知らずに、質問項目の文だけを見て答えています。

考えられる要因としては、現行の学習指導要領の趣旨が浸透してきたということ。それからもう一つ、現在の大学4年生が高校時代を過ごしたのは2013～15年ぐらい、2年生は2015～17年ぐらいということになります。ここで思い出していただきたいのですが、このころ、世の中では高大接続改革に関する方針などが立て続けに発表されていました。「記述力が重視されるようだ」

「モデル問題が公表された」「試行調査も始まった」、こういった流れが、日頃の指導を見直す空気を醸成し、「書くこと」の指導に向かう先生方の背中を押したという一面があったのではないかと推測しているところです。このまま高校国語教育の課題がよいほうに解決されていくのか、それとも後戻りしてしまうのかは、共通テストの記述式がどうという話ではなく、大学の個別試験や選抜プロセス全体も含めた、高大接続改革の今後の行方にかかっているのではないのでしょうか。

### (3) 大学入学共通テストで目指していること

2016年の高大接続システム改革会議「最終報告」では、「マークシート式問題の一層の改善」と「記述式問題を導入すること」などが述べられました。また、2017年の「大学入学共通テスト実施方針」では、記述式問題の導入意義として、言語活動の充実、それから高等学校に対する授業改善のメッセージが合わせて強調されたところでした。条件付記述式問題については、中学校の全国学力学習状況調査で10年以上の蓄積・実績がありますので、大学入学者選抜でもできるだけ、という読みがあったのかもしれませんが。【スライド26】

さて、同方針等で、国語の問題の形式が4種類に大別されている点に注目したいと思います。

- ①テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題
- ②テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題
- ③テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題
- ④テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題

多肢選択式で問えるのは①+②、条件付記述式で問えるのは②+③、つまり、③も含めて出すというのが共通テストのデザインだったわけです。さすがに④は無理なので、個別大学の自由記述式で③+④をちゃんと出していこう、ということになっていくのだらうと思います。【スライド29～32】

### (4) 素材としての「実用的な文章」

「実用的な文章」という言葉が学習指導要領に現れたのは平成11年で、それ以来、新聞記事、道路交通法、薬の使用上の注意、料理のレシピ等が教科書に掲載されてきたという経緯がありました。共通テスト試行調査で「契約書」が設問の題材となったことはやはり刺激が強くて、極端な反応もありました。国語の教材はすべて「読解しないといけない」という考え方が先に立つと、あれは読解する価値があるのか、ということになるのではないのでしょうか。例えばオムライスの作り方が教科書に載っているのは、「読解」するためではないですよね。料理という最終的な完成物を作るプロセスを、的確に分かりやすく人に伝えようとするならば、そのプロセスはどのように分割し、どういう構造で、どういう順番で、どのような表現で説明したらいいのか、そういうことを学ぶために料理のレシピのようなものも教材になるのだと思います。

まとめです。高校の国語の授業が変わりつつある兆しがあるからこそ、これまでの課題を再認識しましょう。これが出発点です。課題があるなら変わらなければいけない、共通テストがどうなるろうとも。課題を認識・共有して、例えば「論じる」力の大切さを実感できるような指導を目指して、複数の情報を統合・構造化して考えをまとめたり、それを根拠とともに述べたりする力の育成等を目指して、指導の改善を図っていくこと、本丸はここでしょう。

## 2. 新学習指導要領を見据えた「高次の学力」を育む授業展開

～新科目「現代の国語」を事例として～（渡邊久暢若狭高校教諭）

### (1) 事例選択の動機と評価に関する課題意識

「現代の国語」が現場ではあまり歓迎されていないかもしれませんが、私は結構良い科目だと思っており、以前からこの科目の目指しているようなことを単元として取り上げてきたつもりです。その実践例をご紹介しながら、「現代の国語」をどのように充実させていけるか、ご意見を伺いたいです。

また、もう一点、私自身ここ数年ずっと悩んでいることですが、評価のあり方、定期考査のあり方について、ぜひ皆さんと一緒に考えたい。若狭高校では「読むこと」に関しては基本的に定期考査で初見の文章を使っていますが、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」はどうあるべきなのか、あるいは定期考査として必要なのか。

国語の場合、単元の学習課題を通して培った「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の力を、定期考査のような短い時間で測るのはかなり難しいと考えています。では、単元の課題を通して学習のプロセスを継続的に見取ってきた上で、その成果物としての論文やプレゼンテーションを見取ればいいのでしょうか。私自身はどちらかというところ、そのように単元ごとにプロセスを見取るのがよいと考えている立場ですが、本当に力が付いたかどうか、やはり総括的評価として別の評価課題でテストをする必要もあるのか。その辺りも皆さんと共有し、ご意見をいただければと思います。

### (2) 教材研究にチームで取り組む

教育は一人ではできませんし、一つの学校のカリキュラムという観点からは、各クラスの担当者が全く異なる授業をするのが果たしてよいかというところ微妙です。だから教材研究はチームで取り組むべきだし、そのために教科会も、お互いが教育の専門家として授業について話し合い、専門性を磨くようなコミュニティにしないといけない。そうであってこそ、しっかり生徒に力を育むことが可能になると考えています。

定期考査も学年共通とし、初見のテキストを出題して力を測ることにずっとトライしています。そのために作問についても話し合うし、そのような定期考査を実施する以上、単元に入る前に評価の基準や目標をある程度擦り合わせた上で授業に進む、というのが本校のやり方です。そのためには、年度当初に立てた年間指導計画を、途中で柔軟に見直していくこともあり得ると考えています。

### (3) 高次の学力と教材

私は今2年生の担当ですが、大学入学共通テスト記述式問題対策の問題集のようなものは特に買っていません。海洋科学科2年生の今回の定期考査では、古典Bで200字・100字・100字・80字・100字・50字と、600字以上書かせるテストをしました。世阿弥の『風姿花伝』を扱う単元で、現代語訳や要約、評論なども合わせ読みながら授業を実施してきますと、11月のこの時期になったら、答案が真っ白になる生徒は誰もいません。ほぼ最後まで辿り着いて書いてくれます。実業系の生徒たち、入試では全く古典を使わない生徒たちでもこれぐらい書けます。いわんや、大学入学共通テストの記述式問題ぐらいは授業で対応できるようになります。

ですから、まずしっかり書くことを授業でやりませんか。われわれ高校には、各校の教育目標があります。共通テストで測れる力に合わせるという考え方ではなく、教科も学校の教育目標に基づいて授業をし、カリキュラムを作りましょう、自分たちの学校が、自分たちの生徒に、付けたい力を付けませんか、というのが本日の提案です。

「高次の学力」について、八田幸恵先生の読みの学力に関する研究から、「メタ認知」の部分に着目したいと思います。学力の3要素は「知識・技能」だけでも「思考力・判断力・表現力」だけでもなく、三者を組み合わせて考えなくてはいけません、私がとりわけ大事だと思っているのは「主体的に学習に取り組む態度」です。そして恐らく、この「メタ認知」が「主体的に学習に取り組む態度」とかなり密接に関わるものだと捉えています。主体性とは、文部科学省の整理では自己調整力と粘り強さとされていますが、私は、基本的には「メタ認知」をうまく育てていくことがポイントだと思っています。最近私は、「メタ認知」を自己評価できるぐらいの力を付けられるといいなと、いろいろ取り組んでいます、まだまだ試行錯誤中です。

「高次の学力」を育むには、より良い題材を選ぶことに尽きると思います。つまらない教材でつまらない活動をして、いい力が付くわけがない。もちろん教科書教材がだめだと思っているわけではありませんが、目の前の生徒をよく見て、彼らが「ああ、自分に必要だな」と実感できる教材を選ばないといけません。目の前の生徒の進路希望や国語以外で学んでいること、やりたいことをしっかり見つつ、考えてみませんか。

ということは、若狭高校で今日うまくいっていることが、先生方の学校で必ずしもうまくいくとは限りません。あくまで出発点は目の前の生徒です。彼らが切実にやろうと思える教材でないと、粘り強く学習に取り組めませんし、自己調整して、苦しいながらもやろうとも思ってくれません。だからこそ、国語科のポイントはやはり教材だと思います。もともとコンテンツを教える教科ではありませんが、いい力を付けようと思うならば、いい教材を取り上げないといけないというのが私の結論です。

#### (4) どのような学習活動を組織するか

とはいえ、教材だけが良ければいいかというと、多分そうではありません。どのような学習活動を組織するか。英語では「オーセンティック」、研究用語では「真正の」と言ったりしますが、今回は「本物の」と資料に書かせていただいています。簡単にいうと「嘘臭くない」ということです。

パフォーマンス課題の例で、「あなたは新聞記者です。うんぬん」といった設定をよく見かけます。しかし、生徒たちが本当にやろうと思えるならば、「私は〇〇です」式の設定はいらないと私は思っています。例えば若狭高校では2年生全体で『こころ』の論文を書く単元をやっていますが、テキストがいいからちゃんと食い付いてきますし、論文を製本してみんなに見てもらおうということになると、切実性をもって取り組んでくれるのです。「総合的な探究の時間」の探究課題と一緒に、わがこととして考えられるかどうかだと思います。全てが全て私のことでなくても、自分に引き付けて自分はどうかと考える課題がやはりいいと思いますし、そのために、「実際に社会に出たら普通はこんなふうにする」という視点で活動を組織するといいいのではないのでしょうか。それが、ここでいう「本物の」ということです。

## (5) 2006 年の実践事例

2003年に経済産業省のアントレプレナーシップ育成事業に応募して考え、2006年にバージョンアップした单元をご紹介します。当時は本校に商業科がありましたので、マーケティングの知識などを活用しつつ国語の力を育てられないかと思って、この授業を考えました。さっき「嘘臭い」と言ったばかりですが、「あなたは新人経営コンサルタントで、コンビニ店主から依頼を受けました」という設定です。もう13年前なのでお許しください(笑)、当時はまだ若かった、と。

本校の前にはコンビニがありません。自校の前にコンビニを出店するとしたら、どんな店にし、どんな商品をどれくらい仕入れるか考えて、プレゼンしましょう、というものです。高校の前にあるからといって高校生だけがターゲットでいいかということとそんなことはなく、高校生は放課後まで校外に出られないので、日中は誰をターゲットにするのかとか、いろいろ考える要素はあるのです。それを自分たちでプランニングして、アンケート調査等もやってみて、最終的に案をプレゼンするという活動を、「話すこと・聞くこと」領域の单元でやってみました。「話すこと・聞くこと」という、どちらかというところある程度日常的にやっていることほど、本当のプレゼンをさせたほうがいいと思います。表面的なスキルのトレーニングよりも内容を重視し、本当に内容のある活動をやらねばと思って実施しました。

一方、普通科の生徒はマーケティングの知識がないので、商品の配置を考えるという授業にしました。3観点、「主張と根拠」「構成と話し方」「質問への返答」で評価ルーブリックを作り、観点を生徒と共有しておきました。ちょうどPISAショックの時期で、非連続型テキストという言葉が躍っていた時代です。それを読み取って、クリティカルに踏み出した自分の考えを、上司の経営コンサルタントに提案するという想定で、いろいろな商品配置を考えてみて、最後はプロの方にも見ていただいてパフォーマンス評価をする。

国語という教科は、本質を突き詰めて追求すればするほど領域を超えていく、と私は思っています。国語の本質は、教科を超えて、社会科や理科のプレゼンでも使えるのではないのでしょうか。だから私は、合教科的な取り組みを無理に考えなくてもよいという立場です。もっと言うと、国語をもっと極めませんか、と思っている立場です。商業科での実践例も、マーケティングを学ぶためにやっているわけではなくて、国語の本質を大事にして、国語の力を培うことをやったと考えています。教師はなるべく本物の学習課題を考え、本当の学びの場を実現するべきです。そんな单元ならば、きっと探究のサイクルが回るはずです。それが結果的に、「総合的な探究の時間」の探究課題にも生きてくる。国語でしっかり探究をしませんか、ということです。

プロの経営コンサルタントなんて、お金がかかると思いますよね。でも、町には手弁当で来てくれる方が案外いらっしゃるものですよ、保護者とか、卒業生とか、行政の人とか。だから、あんまりお金がないと悩まずに、オープンに教室を開いてみましょうよ。評価の場面も、学校を開き、教室を開き、いろんな方に見てもらうことで、より良い評価になりませんか？ 教師が評価を独占するのではなくて、自己評価もするし、相互評価もするし、われわれ教員とは全く違う立場の方からも見ってもらう。それが、生徒たちが自己調整する上でのポイントとなりますし、そういうことを組織化するのがわれわれの仕事だと思います。

## (6) 2019 年の実践事例

もう一つ、今年9月の実践を紹介します。評論文の論理構成をつかむことを目標に、「読むこ

と」と「書くこと」に一緒に取り組んでみました。論拠を示すのが弱いということはPISAでも明らかになっていますし、われわれ教員も痛感しているところですので、論拠をちゃんと示そうという目標を生徒にも明示しています。実用的な文章や論理的な文章を読んで小論文を書くといったことは大学入試でも出題されますので、こんな単元も少しずつやっています。

教科書教材は高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』（朝日新書）ですが、これ一つだけ読み込んでもそんなに大した教材ではないので、投げ込み教材を順次付け足していくわけです。例えば、池内了「真の民主主義の確立のために」。なぜこの教材を引いたかということ、民主主義について考えさせるのによいということと、もう一つ、今年の津田塾大の入試の小論文で出たということもあります。各教材に、問一～問三までは読み取り問題を付け、問四で、読み取った上でどう考えるかを問いました。ただし、文章はまだ書かなくていいから、問四でまず自分なりの「問い」を作ってみよう。「問い」を作るのが難しいのは皆さんよくご存じのとおりです。その練習を複数の教材でやってみるわけです。それから構想メモといって、簡単なメモを1行ずつくらい書いてみる。実際に文章を書かせる活動を何回もやると生徒も疲れてしまいますし、時間もかかりますので、この段階では「問い」と構成メモを強く意識させることによって、読む時も本文の構成を意識的に考えてくれるようになるかな、という仮説に立って、インタラクティブな視点から考えた単元です。

ちなみに、ちょうどこの単元に取り組んでいる時に、皆さんもよくご存じのグレッタ・トゥーンベリさんが話題になりました。この方のスピーチ動画も投げ込み教材に加えたら、生徒たちは真剣に見ていました。民主主義を考えると、あなたたちはどうアクションする？ ということと一緒に考えていくわけです。さらにその直後に、香港のデモで学生が拳銃で撃たれるという事件が起きました。ぼくたちの民主主義だ、自分も参加しようというのもいいけれど、撃たれることもあるという現実。こんな形で「問い」を作りながら、生徒を揺さぶっていました。

このように、もともと考えていた教材に加えて、リアルタイムで起こっていることを取り入れることもあります。例えば写真一枚でもかなりのインパクトを持つことがあります。そんな物からも十分思考を深められるので、文化的価値か実用的か、などと悩まずに、各科目で培うべき能力を見据えて、良い教材と学習活動、そして良い評価のあり方を一番に考えましょう、ということが私の提案です。

#### 全体討論の内容

——共通テスト記述式問題も定期考査もあくまでも一側面とは思いつつ、プロセス重視だけでも足りないと思います。また、授業のプロセスと認知・理解のプロセス（理解に必要な時間）などもあると思う。両先生のお考えを伺いたいです。

**島田** まず、共通テストと定期考査ではだいぶ目的が違うということはあります。選抜でも、プロセスを重視する入試もあれば、ある時点での最高到達点だけを測る入試もあり、方式ごとにバランスを取っていくしかないと思います。一つの入試における評価ポイントはどちらか一方にならざるを得ないかもしれませんが、そのあたりは選抜の目的との兼ね合いですね。

**渡邊** 私自身、ずっと悩んでいるところです。お一人、「普段の毎日の学習では失敗をさせてあげたいし、失敗も学習になるということだから、プロセスの評価と総括的な評価は分けて考えたほ

うがいいのではないかと書いてくださっていて、本当にそのとおりだなと思います。一概に言えることでないし、私も正解をもっているわけではないので、ぜひ今後も議論を続けさせていただきたいです。

——島田先生は、数々のアンケート調査の結果等から、高校の国語教育がいい方向に変わりつつあるという兆候を見て取っていらっしゃいましたが、そんな先生の実感から渡邊先生の実践紹介をご覧になって、どんな感想をお持ちになりましたか？

**島田** 渡邊先生は多分、突出していい先生なのだと思いますし、しかも10数年前から先進的な取り組みをなさっていました。今、急に渡邊先生の授業が標準になるということは難しい気がしますが、少しずつそういう先生が増えてくるのかな、という気がしています。非常に熱心に文章作成指導に取り組まれる先生が以前からいらしたということは、いろいろとエピソードを聞くところもあるので、そういう意味では全体的に「書くこと」の指導が不調というよりは、二極化しているという側面はあるかなと思っていました。今回の調査の結果だと、非常に熱心に指導されている先生がずいぶん増えていきますし、それと同時に全体の底上げや活性化が図られてきているという印象を持っています。

——そんな突出した実践者でいらっしゃる渡邊先生のような方と若いころと一緒に働いていたら、といった感想もいただいております。渡邊先生の現在のご勤務校での立ち位置や、他の先生方とのやり取り、国語科チームの雰囲気などをお伺いできたらと思います。

**渡邊** 大体、学年を自分がメインで持つような形でやっていますが、今年の2年生であれば、私と常勤講師の先生のほか、他学年も持っている再任用の非常勤の先生方で担当しています。私が現代文、常勤講師の方が古典といった具合に、二人が中心となってプランニングした案を出し、非常勤の先生方に確認してもらいながらやっています。若狭高校国語科チームはフラットでオープンな、日本に誇れるチームだと思っています。お互いに教材の共有もしますし、うまくいったかどうかなど、実施後の所感もネットワーク等で交流しています。働き方改革も言われていますし、教科会は時間割内に入っていて、放課後にすることはほぼないです。

——「書くこと」に関する課題を生徒に出すとき、他教科等の課題との兼ね合いをどう調整していますか？

**渡邊** 私はあまり課題を出さないほうですし、週末用の問題集みたいなものも買いません。普段の授業でやりきれなかったことをやってきてもらう、という程度です。家で大体30分位を目安に、早い子は授業中に終わるような課題を意識しています。模擬試験なども国語だけ突出していてもよくないという立場で、生徒にはむしろ英数を頑張るように言っていますし、むしろ私自身は引いています。それでも生徒は熱心に取り組んでくれるので、ありがたいな、と思っています。

——生徒をわくわくさせるような仕掛け、中学校までの学びを終えて入学した生徒さんへのファーストインプレッションとして、どんなときにどんなことをされていますか？

**渡邊** 昨年1年生を久々に持ってみて、正解主義がすごく多いという印象を受けました。4～5月頃は「先生、早く答えを教えてください」「定期考査対策プリントはないんですか」などと、ま

あよく言われました。試験は初見の文章が出るから日々の授業が試験対策だし、逆にいうと現代文は対策しなくていいよ、まあ読んでみてよ、といった話をしています。年度当初のテストが少々悪くても、本校は年度末にしっかり力が付いていたらちゃんと見て評価するよ、とも説明します。

「正解を覚えてテストでアウトプットするのが国語だ」と思っている生徒たちを、なるべく変えるような授業をすること。授業の中で変わってもらうしかないですし、とにかく正解主義や、国語は暗記教科だという考え方を、いかに授業や定期考査を通して変えていくかということが1年1学期の使命です。目標と指導と評価の3点をいかに一致させるかを徹底して1年生から続けていけば、最終的には受験対策うんぬんについても苦情を言ってくる子もほぼいなくなります。

——「書くことは思考力を育てることと信じて授業を考えていますが、Society 5.0以降必要なくなるのでしょうか？ そんなことを聞いたことがあって驚いたので」というご質問がありました。島田先生も大学初年次生に論じる力が身に付いていないというご実感をお持ちでしたし、渡邊先生も教師生活28年目とのことで、書く力に関して、かつての生徒と最近の生徒で何か変化を感じていらっしゃるのか、またはいつも普遍的な課題なのか、その辺りのご実感があればお伺いできますか？

**島田** 私は昔と比べてどうこうというのは好きではないので、そこは控えたいと思います。「書くことが思考力を育てる」という件ですが、「書く」ことはその人に一体何をもちますのでしょうか。「書く」と自分の中で何かが起こる、それは確かでしょうが、何がどう起こるかを科学的に明確に明らかにしたものは見たことがありません。ただ、大量に文章を書かせる先生のエピソードはあちこちで聞きます。その結果、素晴らしい成果が得られたという経験談をずいぶん聞きます。ですから、書くとどうなるのかを明確にエビデンスをもってお話しはできないけれども、何かが起こるということは間違いないと私は思っています。それがなくなったりすることはないんじゃないかな、と思います。

**渡邊** 書くことで、枠組みを通して考える力が付くということは言えると思います。それから、子供たちは書くことが大好きだと私は思っています。あんなにSNSも熱心に書くじゃないですか。長い文章は書くのを嫌がるとも言われますが、教師が酷評するから生徒が書くのを嫌になっているだけだと思います。質より量だ、たくさん書こうという方針で、褒めて育てて、いっぱい書いて、他の人に見てもらって、すごいと言ってもらってという経験を重ねて、書けなかったという生徒には今まであまり出会ったことがないです。その内容をいかに深めるかは私たちの手腕にかかっていると思います。

#### 到達点と今後の課題

大学入学共通テストにおいて記述式問題が出題されるかどうかは議論の主眼ではなく、どのような力を付けていくべきかが問題の核心であるということが、大学の島田先生、高校の渡邊先生と、それぞれのお立場からのお話で等しく確認できた。高校においては令和4年度に向けて国語科としてどのようなカリキュラムを構成していくかにとどまらず、カリキュラムの中でどのような教育活動を実践していくかについて、高校教員が学び続けていかなければならないことは尽きない。一方、高大接続の場においては、生徒の主体性をどう見取っていくかについて、生徒会の

役職や部活動の実績を点数化して加算するような方法ではなく、生徒自身が自らの変容について記述したこと、あるいは語ったことを、どうすれば有効に評価できるかといった視点で議論を深めてもらえることを期待したい。



スライド1

第17回高大連携フォーラム第1分科会  
 高大接続改革が拓く国語の可能性  
 ～大学入学共通テストと新学習指導要領から考える～

**大学入学共通テスト「国語」のねらい**

2019.12.07  
 筑波大学人文社会系 島田康行

スライド2

**本日、強調したいこと**

- ▶ 高校「国語」の授業は変わりつつある(その兆しがある)
- ▶ これまでの課題を認識・共有し、「論じる」力の大切さを実感できるような指導を！
- ▶ たとえば、(複数の)情報を統合・構造化して考えをまとめたり、それを根拠とともに述べたりする力の育成を！
- ▶ 共通テスト「国語」(記述式問題)は(現時点で先行きは不透明だが)そうした力の評価をねらいとしている

スライド3

**Contents**

- ▶ 高大接続改革の背景と高校「国語」の課題
- ▶ 大学初年次生が振り返る高校「国語」教育
- ▶ 高大接続改革における「記述」重視の流れ
- ▶ 共通テスト「国語」記述式問題の枠組み

スライド4

**接続改革の流れにおける「国語」**

- ▶ 2016. 03 現行 学習指導要領(H21) 履修者の大学入学始まる
- ▶ 2017. 05 (大学入学共通テストモデル問題例公表)
- ▶ 2017. 07 「大学入学共通テスト実施方針」
- ▶ 2017. 11 大学入学共通テスト試行調査実施
- ▶ 2018. 03 高等学校学習指導要領告示
- ▶ 2018. 08 高等学校学習指導要領「解説」公表
- ▶ 2018. 11 大学入学共通テスト試行調査実施
- ▶ 2019. 06 「大学入学共通テスト実施大綱」
- ▶ 2019. 06 「…大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び…問題作成方針について」

スライド5

**高校国語教育の課題**

- 教材の読み取りが指導の中心になることが多い
- 主体的な表現等が重視された授業が十分行われていない
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が不十分

中央教育審議会答申(平成28年12月21日)

スライド6

**高校国語教育の課題**

- ▶ 高等学校では、…文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること、国語の語彙の構造や特徴を理解すること、古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている。

中央教育審議会答申(平成28年12月21日)

- ▶ 「書くこと」に意義や価値を見出せない
- ▶ 「書く／書かない」とどうなるのか、意識・理解していない

スライド7

## 高大接続改革の背景

ある大学の入試問題検討会議にて

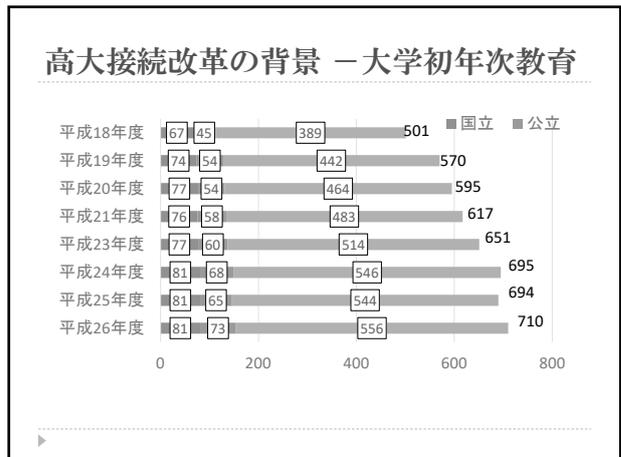
次の中世日本とヨーロッパとの交流に関する2つの資料を読み、  
● 2つの資料の書き方や内容について論じなさい。

↓

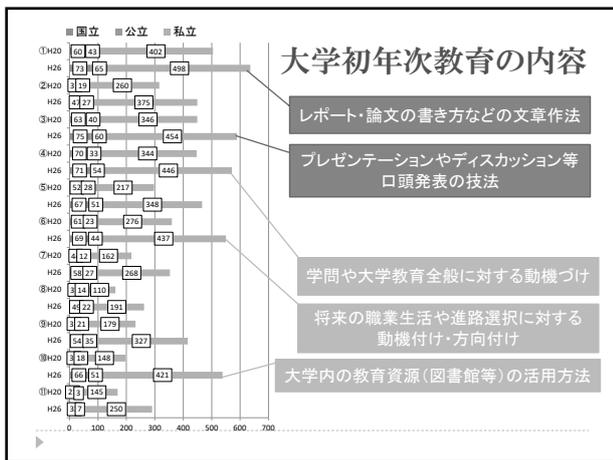
○ 2つの資料の書き方や内容について、以下の点に留意して論じなさい。

- ① ザビエルとフロイスはヨーロッパと日本の関係をどう見ているか。
- ② 両者による日本の描写は何故これほど異なっているか。

スライド8



スライド9



スライド10

### 全学共通科目「国語」シラバスより

- 1 言語運用の具体的な場面を想定し、以下の項目について実践的に学ぶ。
  - ・文脈における語の選択 (1~3回)
  - ・的確/適切/効果的な表現 (4~6回)
  - ・伝えるべき内容の精選と構成 (7~9回)
- 2 論理的な文章の書き方について、基本的知識を実践的に学び、必要なスキルの習得を目指す。
  - ・批判的思考とは (2~4回)
  - ・引用、要約、定義 (5~7回)
  - ・段落の設計と文章の構成 (8~10回)

上記1, 2を並行して進める。  
毎回、テーマに関連した課題を設定し、文章表現やプレゼンなどの作業を課す。

スライド11

## (初年次生の「書く力」 – 引用の技法 –)

×: 自分の意見を述べるために、必要な部分を的確に引用する

×: 引用した部分の内容について、的確に意見を述べる

- 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと (高校「国語総合」)
- 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと (中学校「国語」第3学年)
- 引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと (小学校「国語」第5・6学年)

スライド12

## 2018 ライティング支援連続セミナー 差がつく！レポート攻略術

@中央図書館2階チャットフレーム

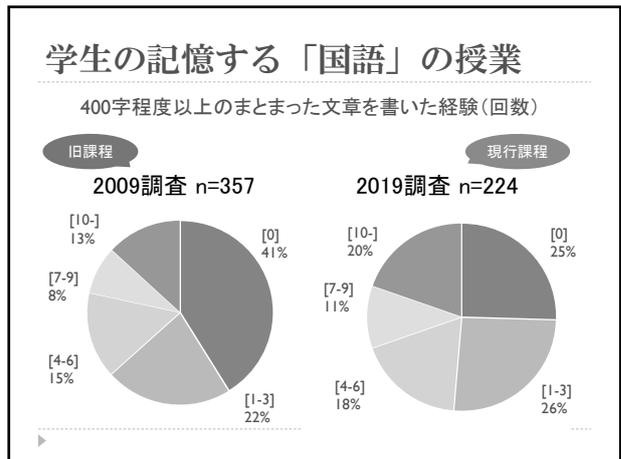
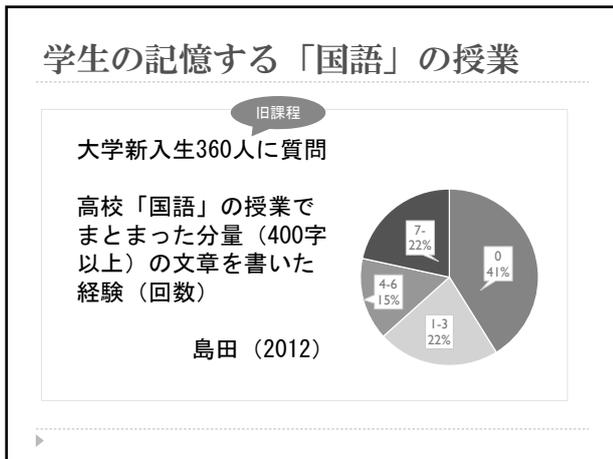
レポート作成基礎編

- ① 疑うことから始めよう: 批判的に読む  
4/25 Wed. 15:15-16:15 島田康行先生 (アドミッションセンター)
- ② 文書の目的を理解する: レポート vs 論文 付: 引用入門  
5/9 Wed. 15:15-16:15 三波千穂美先生 (図書館情報メディア系)
- ③ 文章を構成する  
5/17 Thu. 15:15-16:15 三波千穂美先生 (図書館情報メディア系)
- ④ 論理的に書く  
5/23 Wed. 16:15-17:15 田川 拓海先生 (人文社会系)

レポート作成応用編

- ① レポートのコツ: 図表の表現  
5/30 Wed. 16:15-17:15 野村隆二先生 (生命環境系)
- ② レポートのコツ: 「事実」と「意見」を区別する  
6/6 Wed. 16:15-17:15 野村隆二先生 (生命環境系)
- ③ 最終回: さあ、「良いレポート」を書こう!  
6/13 Wed. 16:15-17:15 五十嵐沙千子先生 (人文社会系)

申込受付 4/14日  
国立大学附属図書館



### （「国語」以外での文章作成）

▶ 「高校在学中、「国語」の授業以外で、400字程度、またはそれ以上のまとまった分量の文章を書いた経験はありますか？ もしあれば、それがどのような機会であったか具体的に書いてください」  
(n=80, 比較文化学類 1年生)

▶ 回答中に現れた語

- ・「小論文」36 「論述」14 「過去問」7 「対策」12
- ・「レポート」20 「論文」3 「課題」2 「探究」1
- ・「総合」17 「世界史」12 「日本史」7 「地理」2
- ・「倫理」2 「英語」1 「保健」1 「部活」2

### 学生の記憶する「国語」の授業

主に学んだ内容（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）

▶ 2015～2019年 4～11月の授業等で質問紙調査

▶ 国内各地12大学の新生入生、2,461名を対象

2015(H27)以前卒業(旧課程) : 811名  
2016(H28)以降卒業(現課程) : 1,650名

高校3年間に受けた「国語」の授業では、主にどのようなことを学んだと感じますか？ 各項について「5 十分に学ぶ機会があった」～「1 ほとんど学ぶ機会がなかった」の5段階でお答えください。

1) 相槌を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して、自分の意見を述べること  
2) 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句  
3) 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと

4) 目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取りすること  
5) 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを  
6) 文章の内容を的確に読み取り、必要に応じて要約や要旨を

7) 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと  
8) 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書くこと  
9) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと

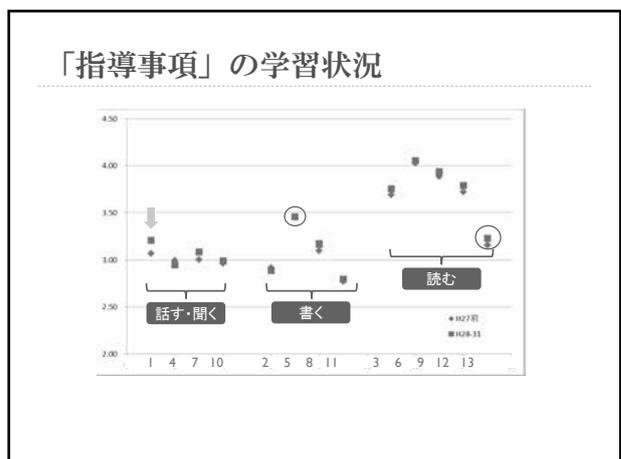
10) 話したり聞いたりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行うこと  
11) 優れた表現の条件を考えたり、書いた文章の自己評価や相互評価を行ったりすること  
12) 文章の内容や表現の特色について評価したり、書き手の意図をたずねたりすること  
13) 幅広い本や文章を読み情報を持って用いたり、ものの方や考え方を豊かにしたりすること

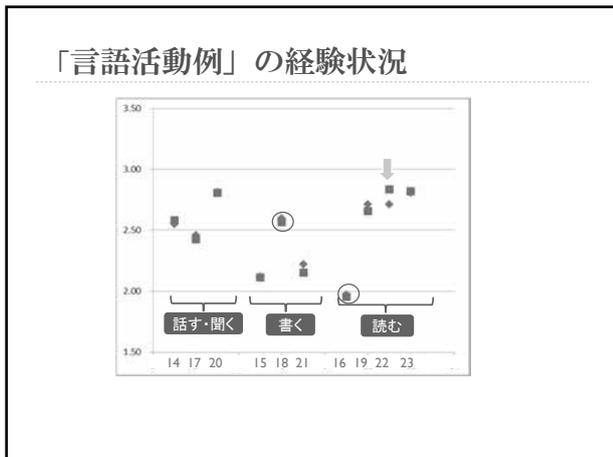
14) 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること  
15) 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくりたり随筆などを書いたりすること  
16) 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えること

17) 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現を吟味しながらそれらを用いたりすること  
18) 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと  
19) 様々なメディアに表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること

20) 反論を想定して発案したり疑問点を質問したりしながら、話し合いや討論などを行うこと  
21) 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと  
22) 現代の社会生活に必要なとされる実用的な文章を読み、自分の考えをもって話し合うこと  
23) 様々な文章を読み比べ、内容や表現について感想を述べたり批評する文章を書いたりすること

現行・高校学習指導要領  
必修科目「国語総合」の  
指導事項(1～13)  
言語活動例(14～23)





- ### 接続改革の流れにおける「国語」
- ▶ 2016.03 現行 学習指導要領(H21) 履修者の大学入学始まる
  - ▶ 2017.05 (大学入学共通テストモデル問題例公表)
  - ▶ 2017.07 「大学入学共通テスト実施方針」
  - ▶ 2017.11 大学入学共通テスト試行調査実施
  - ▶ 2018.03 高等学校学習指導要領告示
  - ▶ 2018.08 高等学校学習指導要領「解説」公表
  - ▶ 2018.11 大学入学共通テスト試行調査実施
  - ▶ 2019.06 「大学入学共通テスト実施大綱」
  - ▶ 2019.06 「…大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び…問題作成方針について」

- ### Contents
- ▶ 高大接続改革の背景と高校「国語」の課題
  - ▶ 大学初年次生が振り返る高校「国語」教育
  - ▶ 高大接続改革における「記述」重視の流れ
  - ▶ 共通テスト「国語」記述式問題の枠組み

- ### 「記述式問題」の導入
- …複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程や結果を表現する能力は、今後、社会のどのような分野においても主体性を持って活動し、活躍するために特に重要となるものであり、こうした能力を高等学校教育や大学教育でよりよく育成していく…
  - そのためには…「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」において、複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめるための思考力・判断力やその過程や結果を表現する力などを評価することができるとともに、マークシート式問題の一層の改善を図るとともに、自ら文章を書いたり図やグラフ等を描いたり式を立てたりすることを求める記述式問題を導入する…
- 高大接続システム会議「最終報告」2016.03

- ### 接続改革の流れと「記述」の力
- 共通テストへの記述式問題導入
- 複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程を表現する能力をよりよく評価するために、記述式問題を導入することが有効である
  - 高等学校教育においても、習得・活用・探究の学習過程における言語活動等の充実が促され、生徒の能動的な学習をより重視した授業への改善が進むことが期待できる
- (高大接続システム改革会議「最終報告」)

- ### 接続改革の流れと「記述」の力
- 個別大学の入学者選抜
- 「主体性をもって、多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価
- [評価方法]
- 自らの考えに基づき論を立てて記述させる
  - 活動報告書
  - 各種大会や顕彰等の記録、資格、検定試験の結果
  - エッセイ、学修計画書
  - ディベート、集団討論、プレゼンテーション
- (高大接続システム改革会議「最終報告」)

国立大学の二次試験における国語、小論文、総合問題に関する募集人員の概算 別紙2

国立大学の二次試験において、国語、小論文、総合問題のいずれも課さない学部の募集人員は、全体の61.6% (49,487人/80,336人)

	募集人員	国語		
		必修	選択	課さない
前期	64,787	15,803 24.4%	4,757 7.3%	44,227 68.3%
後期	15,549	50 0.3%	258 1.7%	15,241 98.0%
全体	80,336	15,853 19.7%	5,015 6.2%	59,468 74.0%

【筑波大学】  
必修 人文 70  
比文 50  
日日 27  
147(前期定員の11.2%)  
選択 教育 28  
心理 38  
障害 20  
看護 45  
278(前期定員の21.2%)

注1)「小論文」と「総合問題」について、選択科目となっている場合  
注2)総合問題とは、複数教科を総合して学力を判断する総合的な問題を指す。

※各大学の発行する「入学者選抜要項」を基に作成

### 共通テスト「記述式問題の導入意義」

○ 大学入学者選抜においては、高等学校学習指導要領に基づき育成された資質・能力をよりの確に評価する必要がある、このことは高等学校教育の改革充実という観点からも重要である。特に、現行の高等学校学習指導要領が、...国語をはじめとする全教科等において「言語活動」(例:説明、論述、討論等)を充実することを定めていることを考慮する必要がある。

○ 高大接続改革を国公私を通じて推進するため、国公立大学の参画の下、共通テストにおいて、言語活動を通じて育成された資質・能力を的確に評価することが重要である。特に記述式問題を導入し、より多くの受検者に課すことで、高等学校に対し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を促していく大きなメッセージになる。

「大学入学共通テスト実施方針」(2017.07)

### 国立大学協会の反応

▶ (1)国立大学は、大学入学者選抜全体(共通試験・個別試験)を通して、論理的思考力・判断力・表現力等を評価する記述式試験を実施し、高等学校教育と大学教育双方の改革の推進に資する。

▶ (2)すべての国立大学受験生に、個別試験で論理的思考力・判断力・表現力等を評価する高度な記述式試験を課すことを目指す。

「大学入学者選抜試験における記述式問題出題に関する国立大学協会としての考え方」(平成28年12月8日)

### 共通テスト記述式問題の枠組み

【評価すべき能力・問題類型等】

多様な文章や図表などをもとに、複数の情報を統合し構造化して考えをまとめたり、その過程や結果について、相手が正確に理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を評価する。

設問において一定の条件を設定し、それを踏まえ結論や結論に至るプロセス等を解答させる条件付記述式とし、特に「論理(情報と情報の関係性)の吟味・構築」や「情報を編集して文章にまとめること」に関わる能力の評価を重視する。

「大学入学共通テスト実施方針」(2017.07)

### 共通テスト記述式問題の枠組み

【評価すべき能力と問題の形式】

○...国語の問題として解答させる内容としては、以下の4種類に大別

- ① テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題
- ② テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題
- ③ テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題
- ④ テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題

○...共通テストの国語の記述式においては、「②テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題」だけでなく、「③テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題」を条件付記述式として出題することを想定している...

「高大接続改革の進捗状況について」(2016.08)  
「大学入学共通テスト実施方針」(2017.07)

【国語】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ (概要)

思考力・判断力・表現力	出題形式	関係
① テキストの部分的な内容を把握・理解して解答する問題	読解問題	読解問題
② テキストの全体的な精査・解釈によって解答する問題	読解問題	読解問題
③ テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答する問題	読解問題	読解問題
④ テキストの全体的な精査・解釈を踏まえ、自分の考えと統合・構造化して解答する問題	読解問題	読解問題

※ 本資料は、共通テストの国語の記述式問題の出題形式と、その評価するべき能力との関係を示すイメージであり、実際の試験の出題形式や問題文とは異なります。

スライド 31

**解答させる内容(問題の例)**

② テキストの全体的な精査・解釈によって解答

- \* テキストにおける筆者の主張とその主張の理由・根拠を説明する
- \* テキストに表現された事象について、目的・場面・文脈・状況等を説明する
- \* テキストの会話や表現等に注目して、登場人物の心情の変化等を説明する
- \* テキストを通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点について説明する
- \* 目的に応じてテキスト全体を要約し、論旨に沿って説明する

③ テキストの全体的な精査・解釈によって得られた情報を編集・操作して解答

- \* テキスト全体の論旨を把握し、推論による内容の補足をして、筆者の主張について論じる
- \* テキスト全体の論旨を把握し、既有知識や経験による内容の精緻化を行って論じる
- \* テキスト全体の論旨を把握し、目的に応じて必要な情報を付加、統合して比較したり、関連づけたりして論じる
- \* 複数のテキストの妥当性を吟味し、情報を統合・構造化して論じる

スライド 32

**解答させる内容(問題の例)**

④ テキストの精査・解釈を踏まえて発展させた自分の考えを解答

- \* テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる
- \* テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる
- \* テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる

多肢選択式 : ①+②  
 条件付記述式 : ②+③  
 自由記述式 : ③+④

スライド 33

交通事故死者数が早く減り始めているのはなぜか、仮説を立てよ。

その仮説が正しいことを証明するためにどのようなデータが必要か。

国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査(論理的な思考)」平成24年

スライド 34

(特定の課題に関する調査「論理的な思考」調査結果)

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei\\_ronri/pdf/10\\_tyousakekka.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_ronri/pdf/10_tyousakekka.pdf)

- 仮説を立て、検証する。(Q. 交通事故のグラフ)  
前提となる資料から仮説を立て、他の資料などを用いて仮説を検証する。
- 議論や論証の構造を判断する。(Q. 学園祭の会話)  
議論や論争の論点・争点について、前提となる暗黙の了解や根拠、また、推論の構造などを明らかにするとともにその適否を判断する。(⇒批判的思考)

探究型の学習活動で養われる能力

スライド 35

**(接続改革における「批判的思考」)**

- ▶ 2011年 特定の課題に関する調査(論理的な思考)  
(国立教育政策研究所)
- ▶ 2012年 大学改革実行プラン(文部科学省)
- ▶ 2013年 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について  
(教育再生実行会議・第4次提言)
- ▶ 2014年 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)
- ▶ 2016年 高大接続システム改革会議「最終報告」
- ▶ 2017年 中学校学習指導要領「国語」
- ▶ 2018年 高等学校学習指導要領「国語」

スライド 36

**素材としての「実用的な文章」**

「○ 素材選定の工夫の例としては、次のようなものが、契約書ショック」

- ・ 論理的な内容を題材にした説明、論説等
- ・ 新聞記事・社説、会議等の記録、実務的な文章(取組説明書、報告書、提案書等)、契約書や法令の条文、公文書等
- ・ 統計資料(図表・グラフ等)を用いた説明等

(「大学入学共通テスト実施方針策定に当たったの考え方」)

- ▶ 「実用的な文章」: 学習指導要領(平成11年版)「現代文」に登場
- ▶ 教科書に掲載された教材の例  
新聞記事、地下鉄の車内広告、観光案内、紀行文、手紙文、料理の手順、薬の使用上の注意、報告文(文化庁「言葉に関する世論調査」など)、法令文(道路交通法、子どもの権利条約など)、...

### 場面設定としての言語活動

例) 記述式問題のモデル問題例(2017.05)  
市の広報文書(町の景観ガイドライン)と  
それに基づく会話文などを素材

⇒ 現行学習指導要領(平成21年度版)  
「国語総合」C 読むこと  
現代の社会で必要とされている実用的な文章を読んで  
内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと

### 「文学作品」の扱い

試験	課題文となる「文学作品」の種類
センター試験	小説
試行調査等	小説、韻文(短歌)、詩、エッセイ

- 記述式問題の追加によって、各大問(領域)の相対的な比率は下がる
- 素材としての「文学作品」の多様性は増すことも予想される

### 本日、強調したいこと(再掲 まとめにかえて)

- ▶ 高校「国語」の授業は変わりつつある(その兆しがある)
- ▶ これまでの課題を認識・共有し、「論じる」力の大切さを実感できるような指導を!
- ▶ たとえば、(複数の)情報を統合・構造化して考えをまとめたり、それを根拠とともに述べたりする力の育成を!
- ▶ 共通テスト「国語」(記述式問題)は(現時点で先行きは不透明だが)そうした力の評価をねらいとしている

